

組合士

# アラカルト

魚町商店街振興組合副理事長 かけはし てるもと  
魚町一丁目商店街振興組合副理事長 梯 輝元さん  
魚町サンロード商店街協同組合理事長

## 組合をリードする役員組合士——事務局の自立を展望中

### 100万政令指定都市最大の商店街

クールな八面六臂の人。取材をしていくの梯輝元さんの印象である。魚町サンロード商店街協同組合理事長、魚町商店街振興組合副理事長、魚町一丁目商店街振興組合副理事長と3つの組合のトップ陣を務め、さらにこの4月から本格稼働した100%組合出資の株式会社タウンマネジメント魚町の社長も兼務。そして本業として司法書士の業務もこなす。「これが日常」という梯さんの日々はかなり忙しいし、複雑に入り組んでいるはずなのだが、こちらがそう振ると、「そうですね」と、実に淡々として、ことさらに大変そうなど見せない。それが冒頭の印象に繋がるのである。

前述の3つの商店街は北九州・小倉駅の目の前に広がっている。各組合員は上から35名、85名、55名となっており、業容は衣料やドラッグストアなどのいわゆる買い回りの小売店と飲食店で成り立っている。3商店街を合計すると北部九州最大の人通りを誇るほどにぎわいのある商店街となっている。

特に、魚町商店街と魚町一丁目商店街

はジョイントアーケード建設により一体化した商店街となっており、来街者がより一層、楽しく便利にショッピングを楽しめるようにとの目的から、ICポイントカードの導入、アーケード内の無線LAN網の設置、デジタルサイネージ（電子ビジョン）の設置といった目新しい「ハイテク」なサービスの提供も行っている。そして、これらの収益事業運営のために2商店街合同出資で設立されたのが、株式会社タウンマネジメント魚町である。

### マネジメント一手引き受け中

3つの組合と株式会社は4人の職員でそれぞれの日常業務が実行されている。それらのマネジメントの責任者を務める梯さんは、司法書士として開業しているので登記をはじめ会社法関係の対応はお手のもの。さらに税務についての知識も持っている。言わば、経営に必要な知識を組合トップが持っているわけである。頼れる人がいればつい頼ってしまうのは人の常ということで、たとえば、組合運営に関わる施策等の解釈といった専門的なことがらとなると、事務局職員はつい

つい梯さんを頼ってしまう状況にある。梯さんも事務局のバックアップをしようとして、「福岡県中央会の会報誌で見かけた」という組合検定試験を受験、現在は3組合唯一の組合士となっている。

ところで、組合士のみなさんを取材しているところ、事務局職員組合士を中心に、その資格の存在や役割がなかなか組合員に認知されにくいという声がしばしば聞かれる。組合員（役員）組合士である梯さんも同じことを感じている。「組合士でなくとも日々の組合業務はこなしていけます。しかし、組合職員としてのスキルをアップするには、組合士の勉強は非常に役立ちます。事務局職員にはそういう視野に立って、勉強すること自体が自分たちにプラスになると認識してほしい」と話す。

### 事務局への期待

「組合事務局は縁の下の力持ちだ」と言う梯さんは、「組合と事務局は何（誰）のためにあるのか」を常に問い続け、答えを考え出していくような組合運営を心がけているし、事務局職員にも求めていきたいと考えている。「組合事務局も日



々の業務をこなすだけではもはや成り立たない時代です。組合や組合員にとつてのシンクタンクのような役割を果たすことが求められてきています。そういう視座に立って組合運営、組合活動を円滑に進める。組合士の意味もどんどん深まってきています」と、梯さんはこのように組合の将来を展望している。

同時に、いつまでも役員組合士として自分が組合マネジメントを牽引するのは決して望ましい姿ではないとの意識も強い。そこで、事務局内に組合運営のノウハウが溜まるような心配りを実施中だと言う。たとえば、すでに職員には簿記2級を持っている人やITスキルの非常に高い人がいるが、そういう能力を個人のものとするだけでなく、共有化するような方向付けに取り組んでいる。

その目指す先には、情報収集からはじめてその情報を分析して、自ら新たな企画を組み立て、提案できるような機能を持つ事務局の姿がある。そして、そういう力を身につけるために自発的な勉強が必要だと職員自らが気がついていく。そういう「気づき」を強く期待しているとのことである。